

海洋人材育成分科会
実施報告

1. 「海洋人材育成分科会」の実施概要

海洋産業の発展には多様な分野の人材が今後必要になる。また、併せて海洋に関する体験、啓蒙活動を通して、海洋産業に対する認知度が上げ、同産業発展に対する県民の機運向上を図る必要がある。

そこで、海洋人材育成分科会では、沖縄県における海洋教育の総合的な連携体制のもと、海洋研究や海洋産業に興味を有する人材の育成、或いは興味を持ってもらうための啓蒙の仕組みに関する協議を行うものとする。

本分科会事務局では以下の海洋及び海洋産業に関する以下のイベントを実施し、啓蒙活動周知活動を行った。

- 第1回海洋ロボットコンテスト
- 小学生を対象とした海洋境域に関するイベント

また、海洋産業化分科会における海洋人材育成に関連する成果として、海洋産業関連企業（県外）に対し沖縄における海洋人材育成についてアンケート調査等を実施した。

上記のイベント、アンケート調査等を踏まえ、海洋人材育成に関する現状と課題の整理を行った。尚、本分科会については本年度は個別の意見等から「海洋人材育成分科会の方向性と取組」を取りまとめた。

更に本事業の海洋産業に関する周知活動として「沖縄海洋新産業フォーラム 2015」を実施した。

以下に内容等を記載し報告する。

2. 第1回沖縄海洋ロボットコンテスト

第1回沖縄海洋ロボットコンテスト

<http://robo-underwater.jp/rchp/JPN/index.html>
※詳細は、ホームページをご覧ください。

2015年**11月21日**(土)
場所: 那覇クルーズターミナル
住所: 沖縄県那覇市若狭1丁目28

2015年**11月22日**(日)
場所: 波の上のみそら公園
<http://www.naminouebeach.jp/>

主催: 沖縄県、琉球大学産学連携推進機構
共催: 沖縄海洋ロボットコンテスト実行委員会、内閣府沖縄総合事務局、(公社)沖縄県情報産業協会、(独非)日本水中ロボネット
後援: 長崎県、(公財)沖縄県産業振興公社、沖縄総合通信事務所

協賛: 富士通(株)沖縄支店、(株)VLC、琉球インタラクティブ(株)、沖縄ターミナル(株)、
沖縄フオーサイト(株)、拓南製鐵(株)、(株)インパルス、広和(株)、西川計測(株)
松山工業(株)、(株)沖縄富士通システムエンジニアリング、三菱電機特機システム(株)、
(株)琉球ネットワークサービス、エッセイマリニ工業(株)、(株)NS・コンピュータサービス、
(株)東京測器研究所、(株)新世紀システムズ、金秀アルミ工業(株)、レモジャパン(株)、
マリメックス・ジャパン(株)
(順不同)

～スケジュール～

1. 11月21日 (土)

時刻	事項	場所	備考
12:30-13:00	参加受付	那覇クルーズターミナル	
13:00-13:30	オリエンテーション 競技順抽選	〃	
13:00-13:30	審査委員会事前打合わせ	〃	
13:00-16:00	ロボットの調整	うみそら公園	
13:30-13:40	開会式	那覇クルーズターミナル	
13:40-16:20	プレゼン (ROV、AUV、FREE)	〃	
17:00-19:00	交流会 (会費: 1,000円)	うみそら公園・BBQ	会場移動

2. 11月22日 (日)

時刻	事項	場所	備考
8:00-	参加受付・競技調整	うみそら公園	
8:00-9:30	ロボットの調整	〃	
10:00-10:30	競技方法説明	〃	
10:00-10:30	審査委員会事前打合わせ	〃	
10:30-12:10	競技① (ROV)	〃	
12:10-12:40	昼食	各自由	
12:40-15:40	競技② (ROV、AUV、FREE)	うみそら公園	
15:40-16:10	審査	〃	
15:40-16:10	後片付け・梱包	〃	
16:10-16:40	表彰式	〃	

～参加者一覧 (学校名50音順)～

1. ROV部門

NO	学校名又は企業名	代表者	ロボット名
1	岩手大学	森 隼人	FAN
2	大里中学校	飯塚 悟	LEQUON
3	沖縄工業高等専門学校	比嘉 匠	いらぶちやー
4	沖縄職業能力開発大学校	源河 光泰	ちゃんぶる～号
5	九州工業大学大学院	中西 亮汰	VISION
6	九州職業能力開発大学校	西井 一史 吉田 元希	KPC-ROV2015
7	北九州工業高等専門学校	松尾 貴之	USO
8	長崎大学 日本文理大学	真崎 浩平 井上 諒也	高機動ROV
9	琉球大学	仲野 隼人	マンタ号

2. AUV部門

NO	学校名又は企業名	代表者	ロボット名
1	沖縄職業能力開発大学校	亀井 良暉	やなわらばー号
2	九州職業能力開発大学校	波多江 良介	トウルシオブス
3	西日本工業大学	眞田 篤	幸村
4	日本文理大学・九州工業大学筑紫	彰太	OCTA

3. フリースタイル部門

NO	学校名又は企業名	代表者	ロボット名
1	JTC Tamagusuku (Junior Tech Club)	安倍 柚美	ウミガメロボ

「第1回沖縄海洋ロボットコンテスト」開催状況

沖縄県は広大な海域を有しており海洋深層水、海底熱水鉱床、波力、マリンバイオ等の多様な海洋資源が存在しています。沖縄21世紀ビジョンにおいても次世代のリーディング産業の一つとして海洋産業を掲げています。このため沖縄における海洋資源分野の研究・教育等の活性化の一つとして、平成26年12月に「沖縄海洋ロボットコンテスト・プレ大会」を開催しました。

この成果を踏まえ平成27年11月21日・22日に「第1回沖縄海洋ロボットコンテスト」を開催することができました。

コンテストはROV部門 (Remotely Operated Vehicle: ブイ下の海中設置の文字を撮影)、AUV部門 (autonomous underwater vehicle: 自力でスタート後、ブイを認識しながら一定距離を走行・浮上)、フリースタイル部門 (生物運動型ロボットなど独創性を競う) の3部門で競う。今回は、九州一円の大学等に加え岩手大学や県内の小中学生が参加するなど計14チームが沖縄の海に挑戦した。

21日の午後より那覇クルーズターミナルにてプレゼンテーションが開始され、各チームがそれぞれのアイデアを発表するとともに審査委員との質疑応答を行った。

翌22日は午前から実機競技・ROV部門が始まった。最初に前回のプレ大会で最優秀賞を取った長崎大学・日本文理大学の合同チームがスタート、前半はブイ1まで到着するなど順調に進んだものの後半からは動きが悪くなり時間切れとなる。ロボットを回収するとプロペラに釣り糸が絡まっており、自然の海でのコンテストの難しさを痛感する。その後のチームも海中の透明度と波と風とを相手に苦戦を続け、琉球大学チームも海中を力強く進むもブイに到着できない状況。最後から2番手の岩手大学チームはブイ1までたどり着くも残念ながらタイムアップとなる。そんな状況下、最後の沖縄職業能力開発大学校チームは得点の高いブイ3から攻める戦略でスタートし高得点を挙げる。ROV部門の結果は最優秀賞：沖縄職業能力開発大学校チーム、優秀賞：長崎大学・日本文理大学チーム、敢闘賞：岩手大学チームとなった。

続いてAUV部門が開始された。残念ながら九州職業能力開発大学校チームはロボットの調子が悪く涙のリタイアとなり、3チームでの競技となった。各チーム、目標のブイに向かったスタートするものの左右に旋回し苦戦する。しかし、今年もドラマは最後に起こった。皆が期待して見守る中、最後に挑戦した沖縄職業能力開発大学校チームは全てのブイを通過しゴールに到着、更に進んでUターンして浮上という離れ業を見せる。AUV部門の結果は最優秀賞：沖縄職業能力開発大学校チーム、優秀賞：該当無しとなった。最終的にはROV部門、AUV部門ともに沖縄職業能力開発大学校チームが最優秀賞に輝き強さを見せた。また、大里中学校チーム、JTC Tamagusuku (Junior Tech-Club Tamagusuku) チームには特別賞が贈られた。

今回、コンテストに参加し沖縄の海に果敢に挑戦した参加者の皆さんの健闘を称えたいと思います。また、ご支援ご協力いただいた。実行委員会の皆さま、協賛企業の皆さまに心から感謝申し上げます。

ROV部門

所属	ロボット名	備考
岩手大学	FAN	敢闘賞
大里中学校	LEQUION-AQUA	特別賞
沖縄工業高等専門学校	いらぶちゃー	
沖縄職業能力開発大学校	ちゃんぶる〜号	最優秀賞
九州工業大学大学院	VISION	
九州職業能力開発大学校	KPC-ROV2015	
北九州工業高等専門学校	USO	
長崎大学・日本文理大学	高機動ROV	優秀賞
琉球大学	マンタ号	

AUV部門

所属	ロボット名	備考
沖縄職業能力開発大学校	やなわらば一号	最優秀賞
九州職業能力開発大学校	トゥルシオプス	
西日本工業大学	幸村	
日本文理大学・九州工業大学	OCTA	

FREE部門

所属	ロボット名	備考
JTC Tamagusuku (Junior Tech Club Tamagusuku)	ウミガメロボ	特別賞

(詳細HP <http://robo-underwater.jp/rchp/JPN/>)



開会式・選手宣誓



プレゼンテーション



ROV操作



ロボット調整



参加者・審査委員 集合写真

3. 小学生を対象とした海洋教育に関するイベント

海洋資源産業の振興の周知・気運づくり並びに人材育成の一環として、小学生を対象に沖縄近海で海洋調査を行っている海洋資源調査船「白嶺」を見ながら、沖縄近海の海（探査活動の概要、深海映像の紹介、体験プログラム等）に親しみ、身近な海が如何に利用できるかを体感し、海への興味をうながし、関心を持ってもらうイベントを実施した。

- イベントタイトル：小学生向け海洋関連体験イベント「海は深いな大きいな」
- 日 時：2015年11月22日（日）13:00～15:00
- 会 場：那覇クルーズターミナル2階多目的ホール（那覇市若狭地先）
- 対 象：那覇市内の学童保育所の小学生
- 体験内容：海洋資源調査船「白嶺」の活動内容と海底岩石の展示
深海等に関する実験や映像を交えた体験教室
- 主 催：沖縄県
- 事務局：海洋資源調査・開発支援拠点形成促進事業共同体
- 参加人数：参加人数：小学生19名、幼児9名、保護者16名@計44名

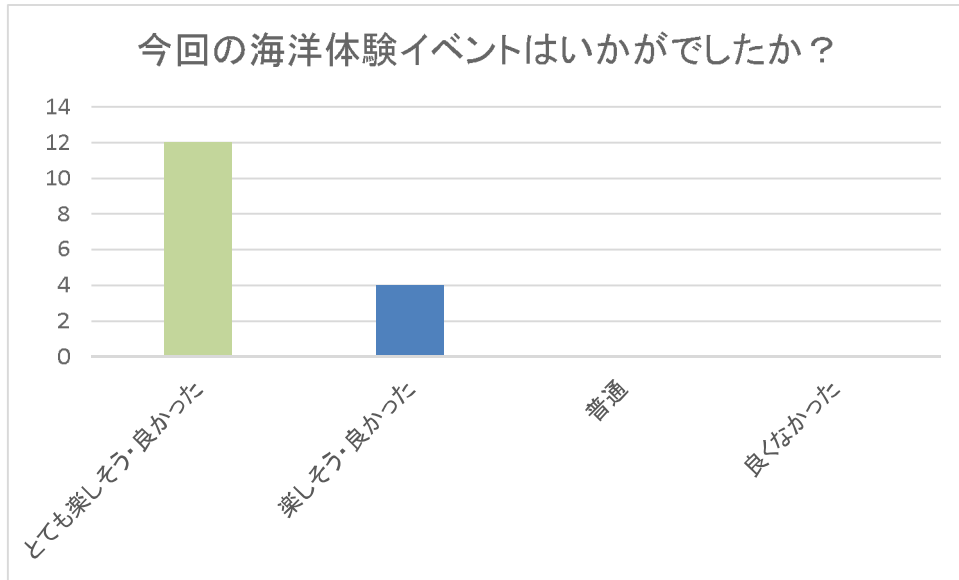


■イベント参加者アンケート結果

(回答数：16名)

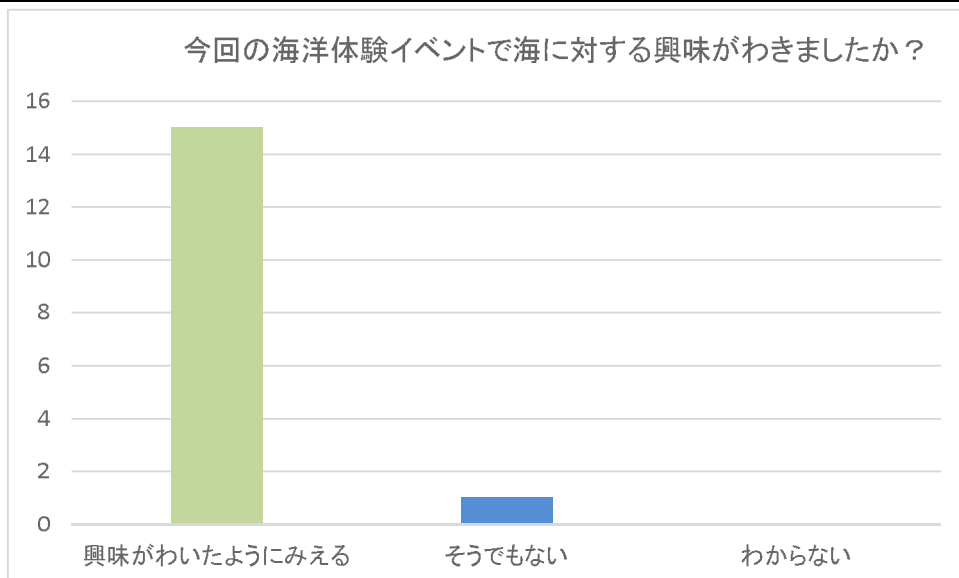
(1) 今回の海洋体験イベントはいかがでしたか？

とても楽しそう・良かった	楽しそう・良かった	普通	良くなかった
12	4	0	0



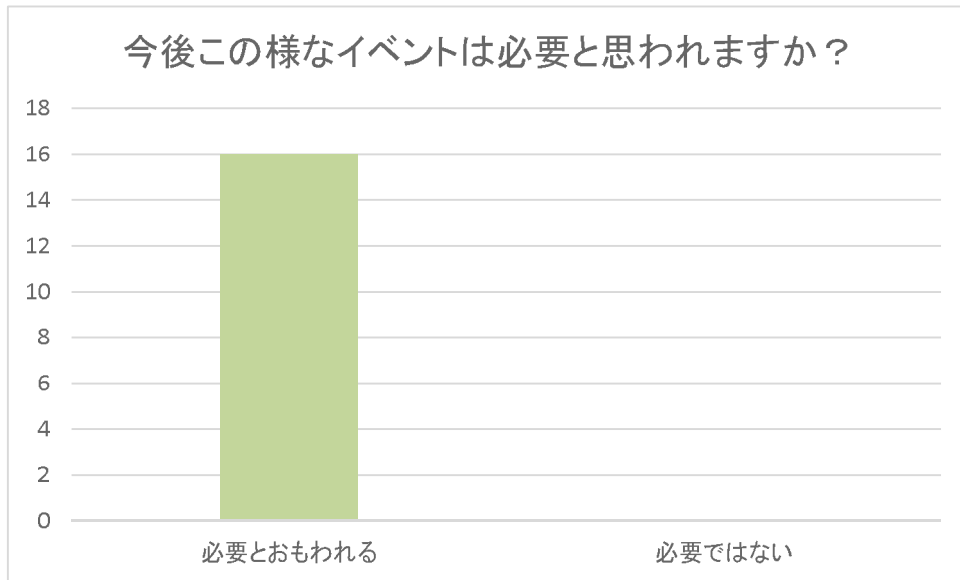
(2) 今回の海洋体験イベントで海に対する興味がわきましたか？

興味がわいたように見える	そうでもない	わからない
15	1	0



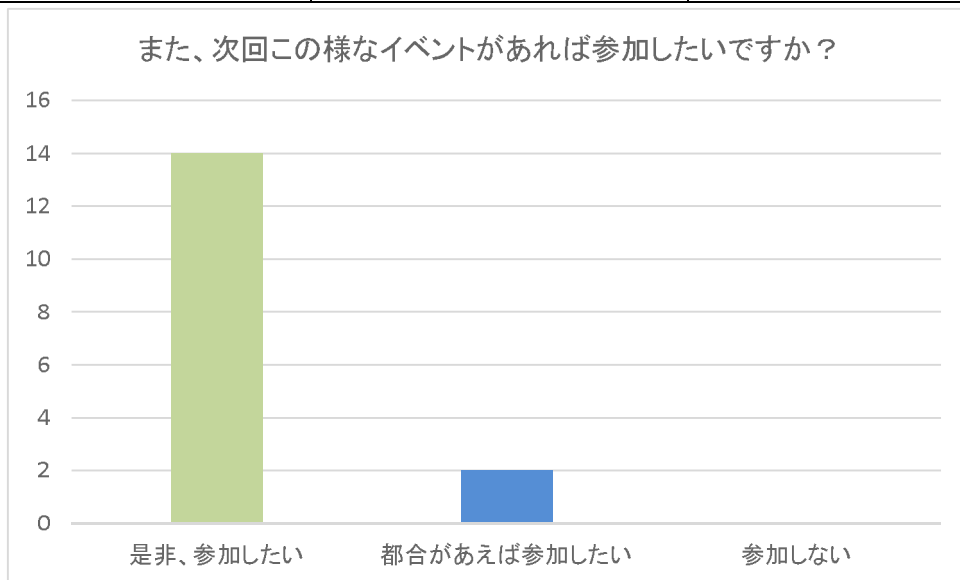
(3) 今後、この様な「海を学び、体験できるイベント」は必要とおもわれますか？

必要とおもわれる	必要ではない
16	0



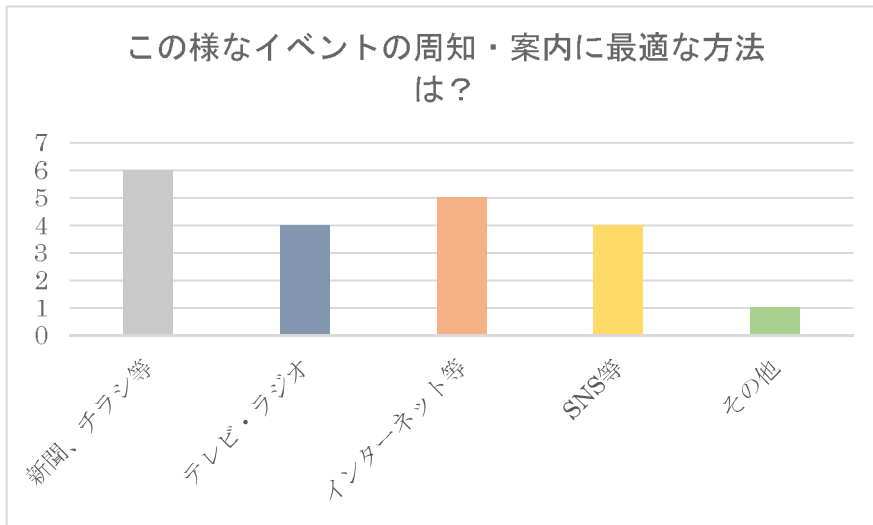
(4) また、次回「海を学び、体験できるイベント」があれば参加したいですか？

是非、参加したい	都合があえば参加したい	参加しない
14	2	0



(5)この様なイベントの周知・案内は次のどれが最適とおもわれますか？（複数回答可）

新聞、チラシ等	テレビ・ラジオ	インターネット等	SNS等	その他
6	4	5	4	学校等への案内



(6)海に関する体験イベントについてご意見をお聞かせください（自由意見）

- ・海のことは泳ぎにいても、海底調査については知らなかったのも非常に興味深かったです。
- ・また次回があれば参加したいです。
- ・那覇近辺で開催して欲しい。
- ・女の子ですが、とてもおもしろく分かりやすくとても興味がわいたようです。こういうイベントをふやしてほしいです!!
- ・スタッフの方々の説明が面白く楽しく学べました。また機会があれば参加したいです。
- ・日常生活では目にすることができないので、子ども達は、良い機会を得ることができました。ありがとうございました。
- ・海にもっとくわしくなれました。
- ・実験がとっても楽しかったし、勉強になりました。もっと GODAC へ皆が行くことができるよう宣伝された方がよいと思います。
- ・最初の説明の時に子ども達には少しむずかしく興味がなさそうだった。実験や鉱物をさわるのは楽しんでいた。
- ・親子共々楽しめました。ありがとうございます。
- ・はじめ知ることが多く、楽しかった。
- ・とても勉強になりました。できれば船の中を見学できるともっと良いと思います。
- ・子供達が楽しそうに体験していたので、こういうイベントがもっとあればよいとおもいます。
- ・今回、学童での呼びかけで参加しました。もっと市内の小学生にも広く、科学や自然に関われる機会の一つとして今後も続けていってほしいです。
- ・科学者、技術者の方にわかりやすく話してもらって勉強になりました。

4. 海洋産業関連企業（県外）へのアンケート（抜粋）

「海洋資源・産業ラウンドテーブル」の会員企業に、海洋資源開発に関する活動の現状、沖縄においての海洋産業創出等についてアンケート調査を実施し、沖縄における人材育成について以下の回答を得た。

業種		沖縄において海洋産業の創出、展開に必要な条件	
		人材育成	
資源探査	A社	<p>人材育成の面では、琉球大学に海洋産業人材を総合的に育成するため、海洋分野（海洋物理・化学・生物・地学・在来型資源・非在来型資源・経済・地勢・地理・etc. . .）を総括的に扱う海洋学部の新設が必要であると思われる。</p> <p>また、工学分野は国立高等高専、研究分野はOIST と言った県内連携体制の強化も必要である</p>	
	B社	<p>資源が豊かな海に囲まれている環境を生かして、大学に海洋に関連する分野（科学、工学）の研究所、研究室の充実が望ましいと考える。</p> <p>ただし単独では船舶等大型設備の保有は難しいことから、保有する他大学、研究機関との連携による利用が望ましい。</p>	
製造業		事業に従事できる知識、能力、技術を兼ね備えた人材育成機関	
		工学部 機械、材料、資源開発、土木の技術者の育成	
土木・コンサルタント	G社	<p>産官学による人材育成を任務とする専門機関の設立。全国的に、海洋に関する学部・学科を新設する。</p> <p>実証フィールドを選定し地域振興・人材育成の核とする。</p> <p>産官学連携に基づいた社会人再教育システムの構築。</p>	
	H社	<p>沖縄県外にある大学、研究機関などに呼びかけて、海洋に関する研究所、研修所を人材育成の場とする。</p>	

※海洋資源・産業ラウンドテーブル

「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画」の推進のための多様な意見交換、多角的視点での研究、必要な共通認識の醸成等を行う民間（民間44、団体6、独立行政法人4等）

5. 海洋人材育成に関する現状と課題と対応策

海洋人材育成に関する現状について分科会メンバーへのヒアリング等を実施し、課題を次のとおり整理した。

(1) 「海洋に関する体験、啓蒙活動等」を実施の現状

【人材育成】

- ・海洋に特化した学部はないが、各学部海洋とリンクした研究がある
- ・海洋に関心のある先生は少ない
- ・海洋関連企業が少なく、そのため海洋産業に興味を示す学生は少ない
- ・海洋ロボットコンテストなどで海に関する関心付けをおこなっている
- ・海洋に特化した学校であり、漁業から船員に至る教育を実施している
- ・海洋全般（流通、食品、生物、スポーツ、通信、教養、福祉等）に通用する人材育成
- ・海洋に関する展示、説明、体験プログラムを実施している
- ・施設内だけでなく、出張開催や依頼開催にも対応し広く啓蒙活動を行っている

【周知活動】

- ・学祭や地域のイベントを通し学校での教育プログラムを公開している
- ・その際、小中学生向け体験イベントは人気がある
- ・今年度、他団体の申し出により在校生向けの海洋資源勉強会を開催した
- ・見学、体験施設を完備している
- ・希望があれば体験プログラムを開催している
- ・県内において毎年出張講義を開催している
- ・依頼があれば出張講演も開催している
- ・海洋に関連する単独イベントはないが、オープンスクールや学祭、地域のイベントなどで関連する発表、展示をおこなったことがある
- ・県民に対しての周知活動は必要だと感じる

(2) 海洋人材育成における課題等

【人材育成】

- ・海洋専門の教育課程が少ない
- ・海洋産業が少ない
- ・海に関する周知を広く行う必要がある
- ・海に興味を示す様な機運づくりが必要である
- ・海洋に関する教育者育成も必要

【周知活動】

- ・学校のイベント活動には予算的制限もある
- ・現状を鑑みると独自のイベントの開催は予算的に厳しい
- ・海洋といっても多岐にわたるので、最近の関心事項もまじえイベントに関心を持って貰うことが重要である
- ・外部で行うイベントについては集客が課題である

(3) その他

- ・「興味」→「体験」→「学習」のサイクルで海に関する関心を抱かせる

- ・子供だけでなく、親への周知も必要だとおもう

上記意見等を集約し、現状と課題を以下の表の通り整理した。

現状	海洋産業の支援拠点を効果的、効率的に運営するには多様な分野の人材が今後必要になるが、現時点では、海洋産業が存在しないため必要な人材を確保することができない	海洋に関するイベントは関連団体が個別に実施し、開催地域も限定している。	海洋に関する体験、啓蒙活動を通して、海洋資源関連産業資源開発に対する認知度が上げ、同資源開発に関する県民の機運向上を図る必要がある。
課題	高校や大学等における海洋分野の専門教育の場が薄く、海洋産業へ送り出す仕組みづくりが必要	小中学校のころから「海」に対する興味関心を高めるための場が少なく、体験を通し学べる場が必要。	県民に対し海洋への理解を深める場づくりが必要

この結果を踏まえ、今後の人材育成への対応策を次のとおり提案する。

課題

海洋人材育成

海洋専門人材育成
高校や大学等における
海洋分野の専門教育
の場が薄く、海洋産業
へ送り出す仕組みづく
りが必要(産業人材育
成)。

初等教育からの海洋 教育

小中学校のころから
「海」に対する興味関
心を高めるための場
が少なく、体験を通し
学ぶ必要がある。

海洋への理解、周知
県民に対し海洋への理
解を深める場づくりが
必要(産業人材育成)。

海洋に関する理解

海洋をフィールドとした産業 人材教育

高 等 教 育
中 等 教 育
初 等 教 育

海 洋 へ の 理 解

対応策

海洋人材育成

ロボットコンテストの
強化
高等教育(大学、高専、
高校)の継続実施
国・県外大学との連携協
調

海洋学習イベントの 強化

体験学習(GODAC,NPO等)
の実施

海洋周知イベントの 強化

海洋情報(産業まつり等)
の周知
国立自然史博物館の
誘致
学ぶ場の設置サポート

海洋に関する理解

6. 「海洋人材育成分科会」の方向性と取組（案）

海洋人材育成化分科会の方向性と取組を以下のとおり提案する。

海洋産業の現状	課題	海洋人材育成分科会の方向性と取組み		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度以降
<p>沖縄近海には国内有数の海底熱水鉱床が発見されており、その産業化に向けた取組みが期待されている。</p> <p>海洋産業の支援拠点を効果的、効率的に運営するには、港湾オペレーション、調査、機器メンテナンス、物資の調達等に必要な多様な分野の人材が今後必要になる。</p> <p>海洋に関する体験、啓発活動を通して、海洋資源関連産業資源開発に対する認知度が上げ、同資源開発に関する県民の機運向上を図る必要がある。</p>	<p>現時点では、海洋産業が存在しないため必要な人材を確保することができないが、人材育成には時間を要するため、早急に着手する必要がある。</p> <p>海洋に関するイベントは関連団体が個別に実施し、開催地域も限定している。</p>	<p>沖縄における海洋人材の育成に向けた基盤</p>		
	<p>高校や大学等における海洋分野の専門教育を実施し、海洋産業へ送り出す仕組みづくり（産業人材育成）。</p> <p>小中学校のころから「海」に対する興味関心を高めるために、海洋教育に積極的に取り組む。</p> <p>海洋産業に対する認知度が上げ、同産業に関する県民の機運向上を図る。</p> <p>国の施策や県外大学・研究機関等との連携を図る。</p>	<p>高校や大学等における海洋分野の専門教育の現状把握と課題の抽出</p> <p>海に関するイベントの実施状況と課題の抽出</p> <p>沖縄海洋ロボットコンテストの実施</p> <p>小学生向けの海洋に関するイベントの実施</p> <p>第2回沖縄海洋新産業フォーラムの開催</p>	<p>高校や大学等における海洋分野の専門教育の課題解決策の提案</p> <p>海洋を啓蒙するための中心となる海洋分科会の設立方針、方策の提案（海に関するイベントの連携策</p> <p>国立自然史博物館誘致活動等）</p> <p>沖縄海洋ロボットコンテスト、小学生向けの海洋に関するイベントの実施</p>	<p>沖縄における海洋教育や海洋人材育成のハード及び、ソフトウェアの整備の提案。</p> <p>海に関するイベントの連携調整（イベントの効果的な開催）</p>

7. 「沖縄海洋新産業フォーラム 2015」



第2回 **沖縄海洋新産業
フォーラム**

～調査・開発支援拠点形成に向けて～

日時 平成28年1月27日(水) 15:00～17:15
(交流会17:30～)

主催:沖縄県 共催:琉球大学産学官連携推進機構

参加無料
事前予約

お問い合わせ 琉球大学産学官連携推進機構 TEL:098-895-8597 FAX:098-895-8957
HP:<http://www.iicc.u-ryukyu.ac.jp/>

平成 28 年 1 月 27 (水) に開催した「沖縄海洋新産業フォーラム ～調査・開発支援拠点形成に向けて～」の実施内容を以下に記述する。

1. 沖縄海洋新産業フォーラムの開催について (※同フォーラム開催パンフレット「開催趣旨」より以下一部抜粋)

「我が国は領海や排他的経済水域まで含めると世界第 6 位の海域を有する海洋国家です。国においては、海洋基本法 (平成 19 年法律第 33 号) に基づき、総合海洋政策本部を設置し、海洋に関する施策を集中的かつ総合的に推進しています。平成 25 年 4 月には今後 5 年間の海洋政策の指針となる「海洋基本計画」が閣議決定され、海洋産業の振興に取り組む方針が明記されています。特に新たな海洋産業として「海洋資源開発関連産業」、「海洋エネルギー・鉱物資源開発の産業化」、「海洋再生エネルギー開発の産業化」、「海洋情報産業の創出」等が取り上げられています。

沖縄は国内有数の広大な海域を有する地域であり多様な海洋資源が存在しています。沖縄 21 世紀ビジョンでは、次世代のリーディング産業の一つとして海洋産業を掲げています。しかしながら、沖縄には専門的な研究機関や企業等の集積が少ない等ポテンシャルを顕在化させるための環境が不足している状況にあります。

このため沖縄近海の海洋資源の調査・開発の状況について、県内外の企業・行政機関・研究機関及び学生・県民等が共有し、将来の海洋産業創出に向けた可能性を探る事を目的として本フォーラムを開催いたします。」

2. 開催日時

平成 28 年 1 月 27 日 (水) 15:00-17:15 (交流会 : 17:30～)

3. 開催場所

パシフィックホテル沖縄 2F「ワイケレ」

〒900-0036 沖縄県那覇市西 3-6-1

4. 主催・共催等

主催：沖縄県、共催：琉球大学産学官連携推進機構

5. フォーラム実施結果（一部）

参加者数 89名

交流会参加者数 38名

6. 開催会場（写真）



基調講演 1（20分）「日本の海洋政策について」
講師 高橋賢次氏
（内閣官房総合海洋政策本部事務局参事官補佐）



基調講演 2（20分）「海底鉱物資源開発政策について」
講師 田守光洋氏
（経済産業省資源エネルギー庁鉱物資源課課長補佐
〔海洋担当〕）



パネルディスカッション（70分） 「沖縄の海洋新産業の可能性について」

【パネリスト】

高橋 賢次 氏

内閣官房総合海洋政策本部事務局参事官補佐

田守 光洋 氏

経済産業省資源エネルギー庁鉱物資源課課長補佐
（海洋担当）

金良 実 氏

沖縄県商工労働部産業振興統括監

塩川 智 氏

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構
（JOGMEC）金属資源技術部長

木川 栄一 氏

国立研究開発法人海洋研究開発機構
海底資源研究開発センター長

山田 吉彦 氏

東海大学教授 経済学博士

【ファシリテーター】

西田 睦 氏

国立大学法人琉球大学 理事・副学長

7. 新聞報道等について



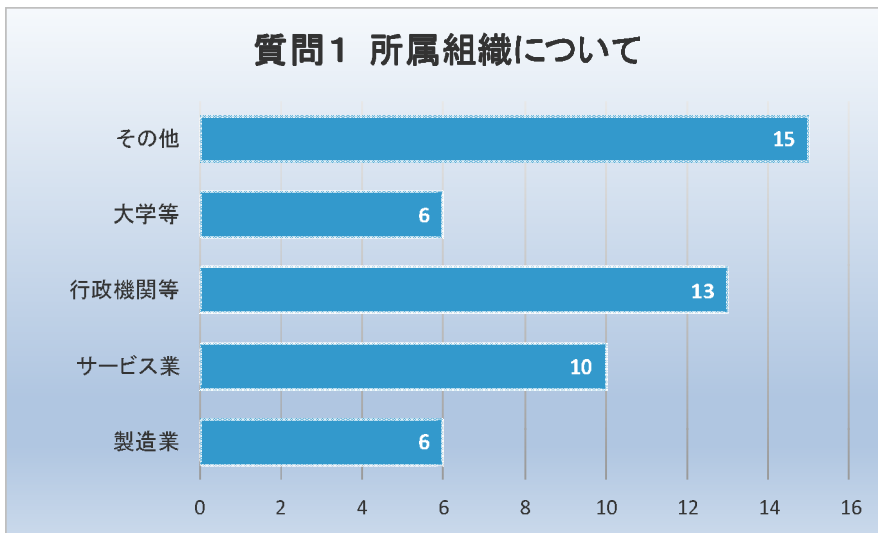
沖縄タイムス 平成 28 年 1 月 29 日（金）紙面引用 「海底熱水鉱床産業化を探る」

8. 「沖縄海洋新産業フォーラム」におけるアンケート結果について

「沖縄海洋新産業フォーラム」において実施した来場者アンケートの結果を以下に記載する。

・アンケート回答数 51

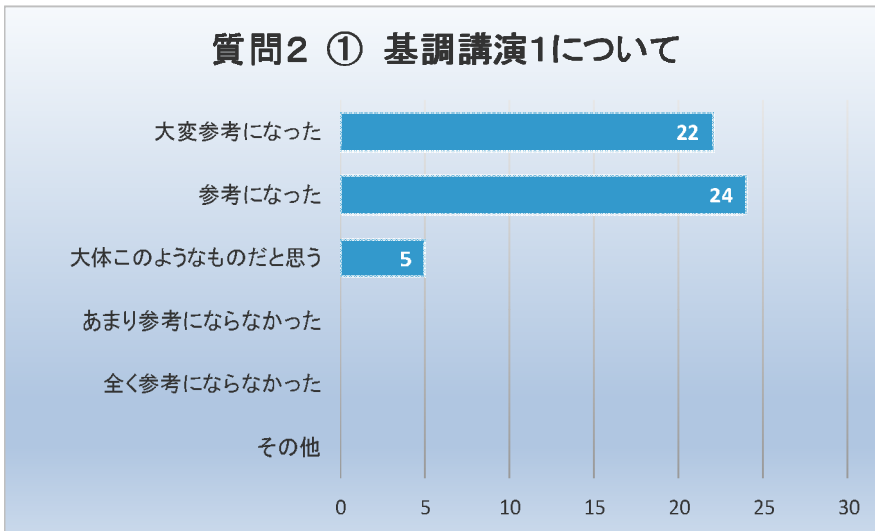
(n=50)



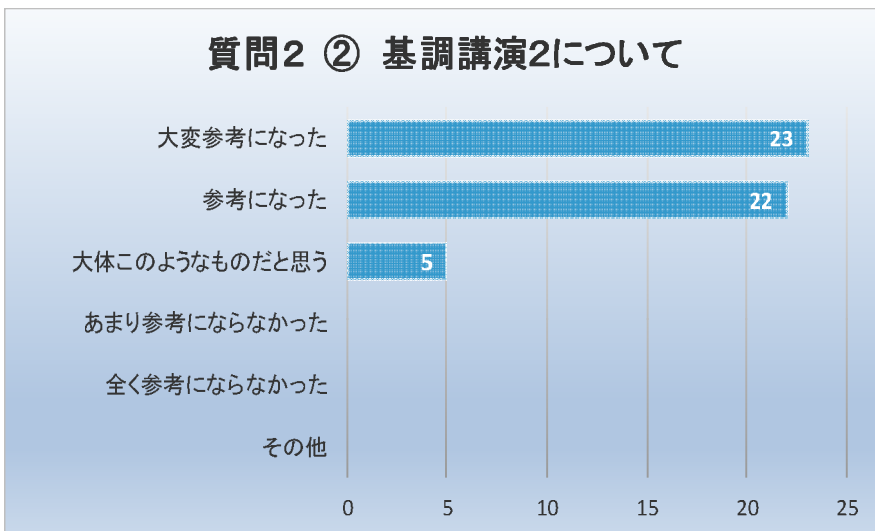
参加者の所属組織は、行政機関、サービス業、次に大学等、製造業、の順で多かった。その他には、以下が含まれている。

- ・産業廃棄物協会
- ・経済団体
- ・建設業
- ・団体職員
- ・一般

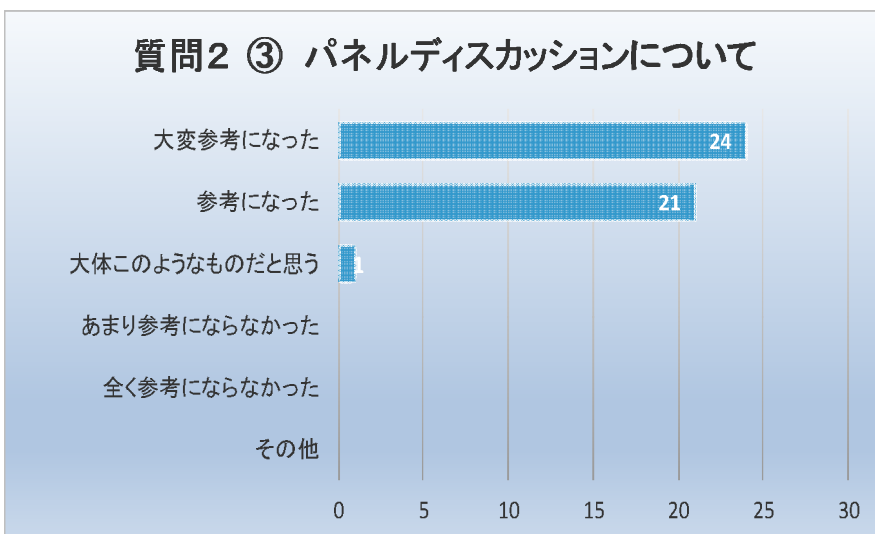
(n=51)



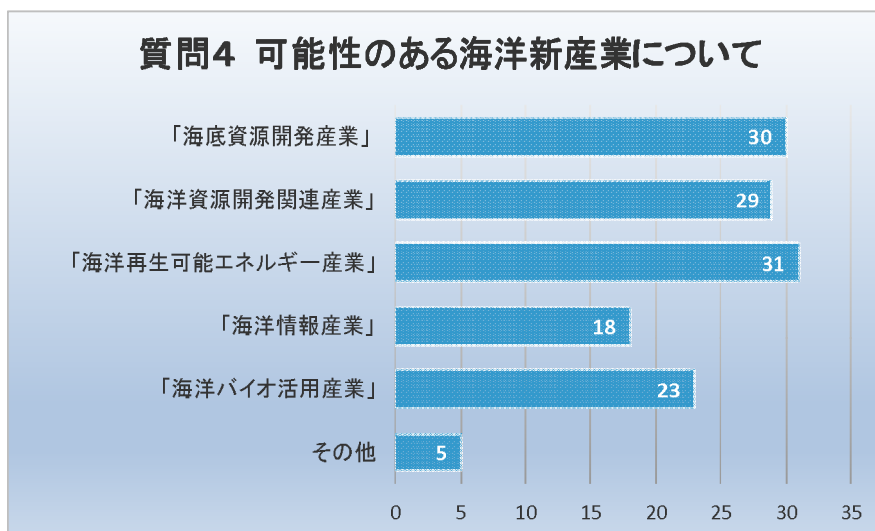
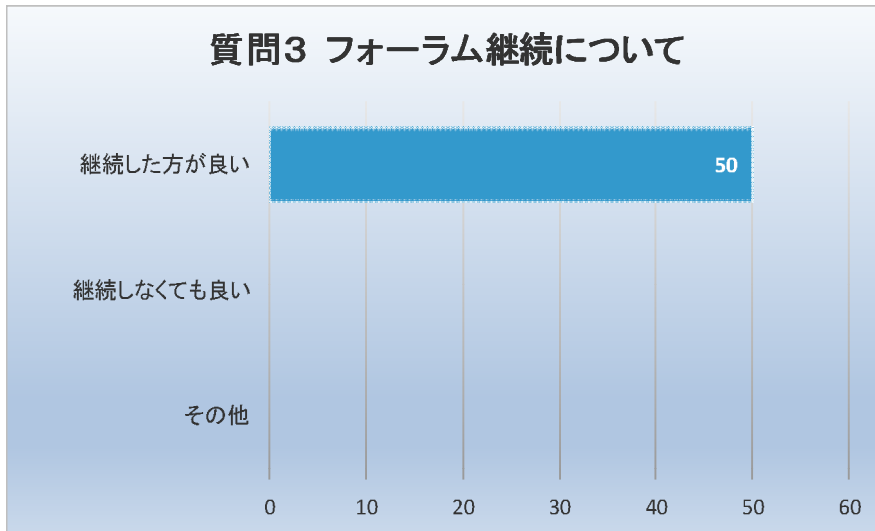
(n=50)



(n=46)



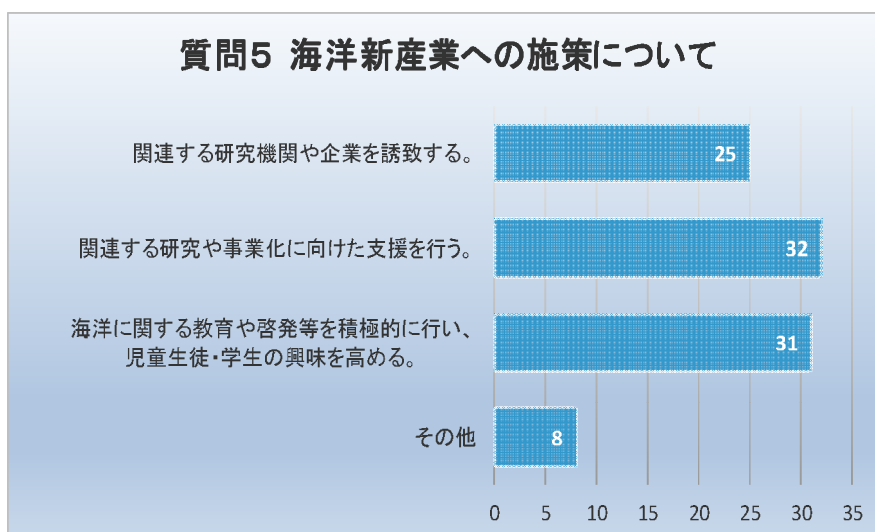
(n=50)



(n=136)

「その他」として、以下の回答もあった。

- ・小型船による調査
- ・水溶性ガス
- ・人材育成の拠点
- ・レジャー・健康
- ・海洋関連の人材育成



(n=96)

「その他」として、以下の回答もあった。

- ・人材育成の重要性
- ・国の協力、海洋関連企業が共通する課題を解決するような仕組み
- ・研究成果をある程度公表して、新産業への参入コストを下げる
- ・地域に対する PI 活動、具体的な支援策を検討する必要
- ・東海大学海洋学科や早大環境資源工学科の沖縄分校を設立する
- ・手軽に利用できるノウハウを研究し、普及。

質問6.「その他、コメントがあればご記入ください」とする質問に対しては、以下の記述回答があった。(n=4)

- ・県や内閣府総合事務局は、海洋新産業に関する業務を公示・発注し、産学官で連携して取り組んでいくべきです。
- ・沖縄でのポテンシャル、新産業とする道筋についてももう少し具体化を。
- ・誘致するためには何をなすべきか協議する場が早急に必要と思います。
- ・早急に産業化を。